

平成25年度温室効果ガス排出量実績（報告）

1. 温室効果ガス排出量

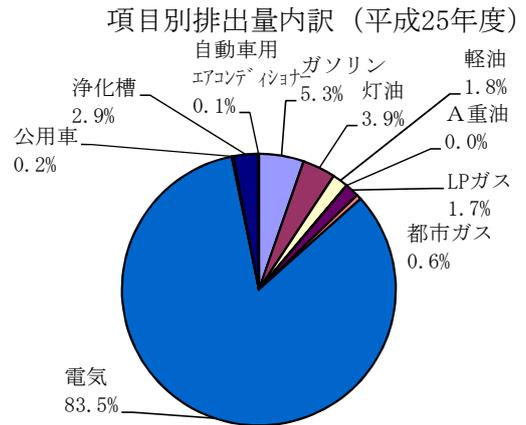
平成25年度における洲本市地球温暖化対策実行計画に基づいた事務及び事業に伴い排出された活動量及び温室効果ガス排出量は、次のとおりとなっています。

調査項目	単位	活動量			温室効果ガス排出量 (kg-CO2)					
		平成23年度 (基準年度)	平成25年度	平成23年度比	平成23年度 (基準年度)	平成25年度	平成23年度比	平成25年度 構成比	増減率	
燃料使用量	ガソリン	L	67,523.9	66,844.1	-679.8	156,653.20	155,076.50	-1,576.70	5.3%	-1.0%
	灯油	L	53,018.0	45,540.8	-7,477.2	132,902.92	114,153.86	-18,749.06	3.9%	-14.1%
	軽油	L	20,202.3	20,771.7	569.4	52,502.80	53,983.90	1,481.10	1.8%	2.8%
	A重油	L	0.0	0.0	0.0	0.00	0.00	0.00	0.0%	0.0%
	LPガス	kg	18,318.5	16,388.6	-1,929.9	55,046.69	49,244.67	-5,802.02	1.7%	-10.5%
	都市ガス	m ³	7,662.0	7,669.3	7.3	16,580.63	16,596.02	15.39	0.6%	0.1%
電気使用量	kWh	5,955,532.1	5,412,633.8	-542,898.3	2,679,983.80	2,435,678.50	-244,305.30	83.5%	-9.1%	
公用車の走行量	km	733,642.7	758,257.9	24,615.2	5,360.91	5,424.78	63.87	0.2%	1.2%	
浄化槽によるし尿及び雑排水の処理	人	4,757.9	4,346.1	-411.8	92,805.04	84,766.55	-8,038.49	2.9%	-8.7%	
自動車用エアコンディショナーの使用	台	181.0	172.0	-9.0	2,353.00	2,236.00	-117.00	0.1%	-5.0%	
合計					3,194,188.99	2,917,160.78	-277,028.21	100.0%	-8.7%	

項目別構成比

平成25年度の温室効果ガス排出量合計では、対基準年度比8.7%の減少となっています。

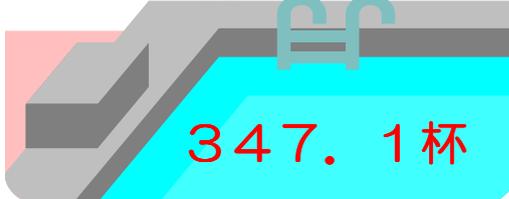
電気使用量による温室効果ガス排出量が全体の83.5%を占め、燃料全体（ガソリン、灯油、軽油等）の割合が13.3%となっています。



対基準年度比の削減量

277,028.21kg-CO2 とは、

25mプールだと



※1kg-CO2=0.509m3

※25mプール容積 25m*13m*1.25m=406.3m3

吉野杉が1年間に吸収する二酸化炭素量では

42,294本

※住宅の柱が一本取れるような吉野杉が1年間に吸収するCO2の量 6.55kg-CO2/年

2. 項目別の温室効果ガス排出量

<二酸化炭素(CO₂)を排出するもの>

「ガソリン使用量」における排出量は、対基準年度比**1.0%の減少**となっています。環境整備課、農地整備課などで使用量が増加していますが、鮎原診療所、管財課などで使用量が減少しているため、全体では減少となっています。

「灯油使用量」における排出量は、対基準年度比**14.1%の減少**となっています。五色台聖苑、五色ストックヤードなどで使用量が増加していますが、小路谷火葬場での使用量が大きく減少していますので、全体では減少となっています。

「軽油使用量」における排出量は、対基準年度比**2.8%の増加**となっています。管財課のマイクロバスや消防施設の消防車による使用量は減少していますが、環境整備課でのパッカー車等による使用量が増加しているため、全体では増加となっています。

「LPガス使用量」における排出量は、対基準年度比**10.5%の減少**となっています。鳥飼保育園や鮎原保育園での使用量は増加していますが、鮎原診療所での使用量が大きく減少していますので、全体では減少となっています。

「都市ガス使用量」における排出量は、対基準年度比**0.1%の増加**となっています。北庁舎や洲本中央公民館での使用量は減少していますが、洲本保育所、本庁舎などで使用量が増加していますので、全体では増加となっています。

最も排出量の多い「電気使用量」は、対基準年度比**9.1%の減少**しております。健康福祉館、五色図書館などで使用量が増加していますが、本庁舎、五色庁舎、各学校などで使用量が減少していますので、全体では減少となっています。

<メタン(CH₄)・一酸化二窒素(N₂O)を排出するもの>

「公用車の走行」における排出量は、対基準年度比**1.2%の増加**となっています。消防施設、鮎原診療所などでの走行量は減少していますが、環境整備課、農地整備課などでの走行量が増加していますので、全体では増加となっています。

「浄化槽によるし尿及び雑排水の処理」における排出量は、対基準年度比**8.7%の減少**となっています。一部の小中学校、保育所などで増加していますが、市営住宅や一部の小中学校、保育所などで減少していますので、全体では減少となっています。

<ハイドロフルオロカーボン類(HFCs)を排出するもの>

「自動車用エアコンディショナーの使用」における排出量は、対基準年度比**5.0%の減少**となっています。企画課、建設課などで増加していますが、消防施設などで減少していますので、全体では減少となっています。

3. まとめ

第2期の実行計画では、温室効果ガス排出量を平成23年度と比較して3%以上の削減を目標としています。平成25年度の実績は、基準年度比8.7%の減少となりました。

目標達成の主な要因は、本市の事務・事業活動から発生する温室効果ガス総排出量の約8割を占める電気使用量の削減が挙げられます。平成25年の天候は、例年以上に寒冬暑夏となりましたが、冷暖房温度の適正設定、不要な照明の消灯、などの日頃の取り組みや照明の間引き、省エネに対する意識向上により電気の使用が抑えられました。

平成25年度の実績は、十分に目標を達成できていますが、本計画は平成29年度までの計画となっていますので、今回の結果に満足せず、本計画に基づく取り組みの更なる推進、温室効果ガスの削減効果の大きい省エネルギー型の機器や低公害車の導入を進める必要があります。

本計画は、市の事務・事業に係るものであり、計画の推進には職員一人ひとりの取り組みが重要となります。今後も職員の意識高揚を図るとともに、地球温暖化対策の取り組みを行っていきます。